医療コンテナ活用状況（R5総合水防演習）

資料１－５

国土交通省

水管理・国土保全局

■近畿地方整備局（5月20日）大阪府藤井寺市

展示：dERU（日本赤十字社）

■中部地方整備局（5月21日）愛知県愛西市

展示：dERU（日本赤十字社）

■関東地方整備局（5月27日）埼玉県深谷市

展示：MC-Cube（さいたま市民医療センター）

■北海道開発局（6月3日）北海道滝川市

展示：dERU（日本赤十字社）

（８）「道の駅」第３ステージの推進

■ 「道の駅」が『地方創生・観光を加速する拠点』となり、ネットワーク化を通じて活力ある地域デザインにも貢献するため、「道の駅」第３ステージの取組を総合的に推進します。

<背景／データ>

・全国に1,209駅設置（R5年8月）

・「防災道の駅」39駅の選定(R3年6月) や「防災拠点自動車駐車場」として354箇所指定(R5年3月時点)

【防災機能強化の取組】

○「防災道の駅」※１「防災拠点自動車駐車場」を中心に「道の駅」の防災機能強化を推進

・地域防災計画に位置付けられた「道の駅」におけるBCP策定率（R1→R7）:3% ⇒ 100%

○「防災道の駅」等において、再生可能エネルギー発電設備（太陽光パネル等）等や、災害時にも活用可能な高付加価値コンテナ※２の設置を推進

防災道の駅「猪苗代」の防災機能強化

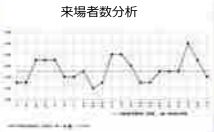
防災道の駅「猪苗代」のコンテナ実証実験

※1：「防災道の駅」選定要件
①都道府県の広域的な防災計画及び新広域道路交通計画での広域的な防災拠点としての位置づけ
②建物の耐震化、無停電化、通信や水の確保等により、災害時でも業務実施可能な施設と、2,500m²以上の駐車場を備えており、BCP（業務継続計画）が策定されていること
（あるいは、選定後3年程度で施設や体制を整える具体的な計画があること）
※２：休憩や地域振興等のサービス提供が可能な可動式コンテナを「道の駅」に設置し、災害時には被災地へ運搬して広域的に活用することを検討。

【モデルプロジェクトの実施】

○「道の駅」の利用実態等のデータ活用や地域とのワークショップを通じ、地域価値を掘り起こして関係人口を増加させる取組を実施

道の駅「とみうら」



データ活用

道の駅「もてぎ」

ワークショップ

【観光機能の強化】

○衛生環境の改善の推進やキャッシュレス決済、通販対応等の取組を促進

【現場支援の強化】

○施設の老朽化等の課題に対し、リニューアルへ活用可能な支援メニューの紹介や、相談窓口の設置等、現場支援を強化

[リニューアル事例] （道の駅「おとふけ」（なつぞらのふる里））

リニューアル前

施設を移転し、農畜産物等販売所（なつぞら市場）や芝生広場を整備

道の駅「猪苗代」における高付加価値コンテナ設置実験

○　道の駅「猪苗代」において、平常時の産業創生と、災害時の国土のレジリエンスを高めるための「高付加価値コンテナ」の設置を実証実験。
○　合わせて、平常時・災害時に活用が期待される各企業の技術等を紹介。

実施日時｜令和5年6月2～4日

実施場所｜道の駅「猪苗代」 ※防災道の駅

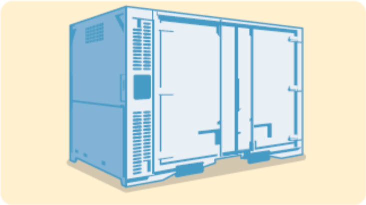
主催｜医療・防災産業創生協議会　（後援：猪苗代町）

参加者｜行政機関、地元企業、協議会関係者　等

道の駅来場者へのアンケートでの声

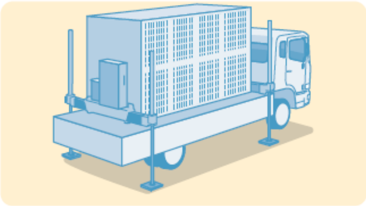
・トレーラーハウスは便利で快適
・クールコンテナは食事の選択肢が広がって嬉しい
・ダンボールベッドは収納場所をとらないから避難所で便利
・快適な避難所であれば、積極的に避難を考えたい

クールコンテナ



冷凍・冷蔵備蓄、避難所でお店の味が楽しめる、新しい備蓄のあり方へ！

ジャッキ付き多目的コンテナ

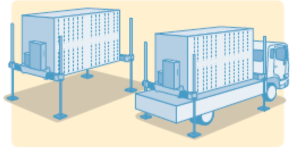


平常時は移動式店舗として営業し、災害時には電源やプライバシーに配慮した施設へと変身！

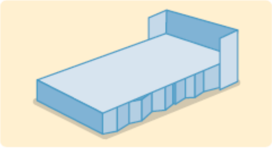
トレーラーハウス

平常時は宿泊施設として使い、そのまま災害時に避難所等として活用！

コンテナ移動



ダンボールベッド



トレーラーハウス内観

マッスルスーツ

様々なタイプのコンテナや、企業の技術を展示

設置の様子